

9月15日(金) 研究発表第7室(722)

民話による音声教育  
 ---理論と試み---

Voice Education through Folk Tales  
 ---Rationale and Experiments---

名古屋聖霊短期大学 ホーランド 萬里子

オーラル・コミュニケーション 表現力 民話 Readers Theatre 音声教育

## I 目的

コミュニケーション力の養成が英語教育の中で大切なものになってきている。オーラル・コミュニケーションの必要性、表現力の必要性がますます高まってきていると言えるだろう。オーラル・コミュニケーションには音声を発することや自己表現と同時に聞き手を意識すること、また人間性もかかわってくる。この試みはそうしたコミュニケーション力のために、音声表現の基本を民話の朗読によって修得することを目指している。民話は本来「語り」の為のものであって、音声がその中心にくるべきものである。文化的背景も濃厚に持ちながら、さほど難しくなく、oral literature としての価値もある。単なる音声の訓練だけに終わらず、音声と意味のある言葉・文化を結びつけられるのではないか。

民話によって oral literature の理解と音声表現の融合をはかる短期大学における音声教育の実験的講義を提示したい。

## II 仮説

## 1 Story Telling としての民話

民話のリズム、くり返し、単純さと力強さ、特にJoseph Jacobs による民話のようにその音楽性とリズムにより記憶に残る民話の特性は音声表現の練習に理想的である。民話は narrative と characterization の両方の要素が入っており、内容表現と感情表現が共に学びやすい。風土等をバック・グラウンドとする地域の独自性や、普遍的人間性に触れることもできる。比較的短くて完結しており、言葉がさほど難しくない。本来かたりものであるから、聴衆を意識して音声を発するのに理想的であり、語りのリズムもあれば、ドラマ性もある。声、表情、ジェスチャー、話の展開、ポーズ等まさに音声の学習に最適であるだろう。民話を音声教育に利用することには、容易さ、おもしろさと楽しさ、有用性という利点があり、その簡潔さ、ドラマ性から recitation や Readers Theatre に適している。民話は表現力養成に理想的な教材であると言えるだろう。

## 2 Readers Theatre (朗読劇) での上演

このような民話を Readers Theatreの形態で上演すれば、一人での語りから複数のグループによる言語活動に広げることが可能になる。民話を台本として、Readers Theatre の

9月15日(金) 研究発表第7室(722)

scriptをグループで作成し演じることは、その民話の深い理解だけでなく、イマジネーションや創造力、協調性も要求される。言語活動が本来の言語活動として、人間性の大切な部分とかかわってくるだけに、有意義で楽しい言語活動ができるだろう。

以上を理論的根拠として、民話を Readers Theatreで表現することによって、音声表現の基本を本来の言語活動として、容易に、楽しく、有意義に、効果的に学べるだろう。

### III 方法

名古屋聖霊短期大学・国際文化学科・英語文化圏の2年生を対象とし、通年の選択必修科目(セミナー形式)の一つを「英語朗読法」として行なう。前期は Mother Goose と英詩により基本的な発声、リズム、発音、音量、ピッチとトーン、テンポとポーズ等を中心に学び、後期は民話により、story の読み方と expressive reading を中心に学ぶことで朗読法の学習を完成させる。ここで取り上げるのは、その後期のものである。

Readers Theatre 及び民話への導入と共に、毎回の講義それぞれにねらいのポイントとなるべきものを置き、それを学習する。その一方で、各グループが選んだ民話のグループによる解説があり、グループ毎に Readers Theatre の script を作成し、最終的にそれぞれの民話を Readers Theatre のスタイルで上演する。Readers Theatre の発表会を講義の無い特別の時間帯に行い、他の学生、先生方を招待して見ていただく。講義のシラバス、アンケートの結果の詳細については、発表時に提示し、発表会の一部をビデオで紹介したい。

### IV 結論

実際の指導の中から、またアンケートの集約から、次のように結論づけることができる。学生はこの民話による音声の学習をプラクティカルだと考えており、音声面で弱いので、こうした訓練を希望している。音読は黙読と違い、一人では学びにくく、指導が必要であり、しかも個人指導が不可欠である。学生はこれまでの英語学習に於て、このような方法で習ったことがないので、最初はとまどうが、民話は入り込みやすく、親しみやすく、学びやすく、この方法はためになり、楽しいと言う。この講義を受けてできるようになったと思うことでは、発音や他の何よりも感情を込めた表現をあげた学生が一番多い。一番有意義だったものは、Readers Theatre であり、「人前に出て自分を表現すること」、「恥ずかしさ等少なくなり、少し自信がついた」ことである。Readers Theatre は楽しく、いい勉強になるとし、「人の前で発表することがとても少ない日本なので、こういう機会は普段から積極的にやるべきだと思う」と書いている。

日本人は個々の発音等の学習の前にまず、聴衆を意識して声を出したり、自己表現を恥ずかしく思わないようにならなければいけない。国際化時代の英語教育は単なる英会話ではなく、きちっとした音声教育が日本語でも必要であり、英語に於ては、発表力の訓練なしには英語教育を完成することはできないと言えるのではないだろうか。表現教育、とくに音声の表現教育は英語教育における緊急の課題だと思われる。

## I 音声表現を中心とする英語教育

1. オーラル・コミュニケーションの必要性
2. 表現力の必要性(音声と自己表現)
3. 本来の言語活動(符号でなく、思考・感情を表すものとして)の必要性
4. 言語活動による人間性の涵養(イマジネーション、創造力、協調性、self-confidence)

## II 民話の特性

1. 本来「語りもの」――読み手/語り手と聴き手
  - (1) 語り手の視点から語られる文学――劇的要素
  - (2) 文学スタイル――リズム、くり返し、単純さと力強さ
    - a. くり返しによる強調、継続、統一
    - b. 語りにおける音楽的楽しさ(音楽性)
2. 人々を支えてきた深い洞察
  - (1) 普遍性
  - (2) 地域性、時代性

## III 音声教育に民話を利用すること

1. 音声教育における民話の利点
  - (1) 容易さ
  - (2) おもしろさと楽しさ
  - (3) 有用性
2. 音声教育上の他の言語教材・言語活動との比較
  - (1) 発音関係の教科書
  - (2) 一般的な物語や小説
  - (3) スピーチ
  - (4) 劇
3. Readers Theatre による発表  
Readers Theatre の利点
  - (1) 聴衆との、また舞台上でのコミュニケーション
  - (2) 一定の時間内に大勢の学生の活動が可能
  - (3) 劇ほどの準備時間や費用を要さず簡便
    - － ジェスチャーや動作にあまり注意を払わずに音声表現に集中できる
    - － 劇の要素も臨機応変に取り入れられる
  - (4) script 作成は、作文の必要がないが、想像力等活発な精神活動を要する創造的な活動
  - (5) 協力して一つのを創り上げる楽しさ
  - (6) 人前で声を出したり、自己表現をする自信

## IV 民話による音声教育指導例

9月15日(金) 研究発表第7室(722)

## V. 民話による音声教育の意義

oral literature としての民話により、音声教育、文学教育、地域研究を融合することができる。しかも民話の語りの特徴を生かした音声教育により、知性と感性の両方を含む言語教育が可能である。

Readers Theatre での発表によって、言語能力のみならず、芸術的センス、人間関係、自己の立場・動作等、言語を越えながら言語にまつわる重要なコミュニケーションの学習が可能である。体を使った人前での自己表現が言語教育にとって欠くことのできないものであり、それによってのみ確固とした上達が可能であると思われる。発表という形態での音声表現は記憶による知性を中心とするテストと異なり、体得という重要な側面を持つのではないだろうか。

理想的な音声教育にはなによりも willingness, self-esteem, self-confidence が必要であり、attitude, confidence が音声教育の中心となるべきである。このように体と心がかかわる音声教育は、容易なものではないが、学生にとっても、教師にとっても感動がある。

## REFERENCES

- Baker, Augusta and Ellin Greene. 1987. Storytelling Art and Technique 2nd ed. New York & London: R. R. Bowker Company.
- Coger, Leslie Irene and Melvin R. White. 1982. Readers Theatre Handbook 3rd. ed. Glenview, Illinois: Scott, Foresman and Company.
- Hunsinger, Paul. 1980. The Fundamentals of Storytelling. Tokyo: Eichosha.
- Jacobs, Joseph. (edited and annotated by Haruhiko Sakai) 1990. English Fairy Tales. Tokyo: Kenkyusha.
- Jacobs, Joseph. (edited and annotated by Haruhiko Sakai) 1990. More English Fairy Tales. Tokyo: Kenkyusha.
- Kubo-Holland, Mariko. 1991. "Readers Theatre' in Foreign Language Education." Bulletin of Nagoya Holy Spirit Junior College. No.11. pp.25-34.
- Kubo-Holland, Mariko. 1994. "Voice Education through Mother Goose Nursery Rhymes and Other English Poems--Rationale and Experiments at a Women's Junior College--." Bulletin of Nagoya Holy Spirit Junior College No. 14. pp.15-30.
- Kubo-Holland, Mariko. 1995. "Voice Education through Folk Tales--Rationale and Experiments--." Bulletin of Nagoya Holy Spirit Junior College. No.15. pp. 21-34.
- Lee, Charlotte I. and Timothy Gura. 1987. Oral Interpretation. 7th ed. Boston: Houghton Mifflin Company.
- Moncur, John P. and Harrison M. Karr. 1972. Developing Your Speaking Voice. 2nd ed. New York: Harper & Row, Publishers.
- Oxford, Wayne H. 1979. The Fundamentals of Effective Oral Expression. Tokyo: Eichosha Co., Ltd.
- Rives, Stanley G. 1981. The Fundamentals of Oral Interpretation. Tokyo: Eichosha Co., Ltd.
- Smith, Lillian. 1991. "The Art of the Fairy Tale" (pp. 34-53) The Unreluctant Years: A Critical Approach to Children's Literature. Chicago: The American Library Association.
- The 17th International Readers Theatre Workshop in London organized by the Institute for Readers Theatre (San Diego) in conjunction with the University of Central Florida, from July 8th to 27th, 1990.